

NPO 法人田村明記念・まちづくり研究会

〈都市計画史人物アーカイブとしての田村明研究〉

田村明とは、

自治体のまちづくりで、理論に基づく実践を総合的に行った人物。革新自治体横浜市で飛鳥田一雄市長を補佐して、みなとみらい地区や宅地開発要綱そして都市デザインを1968年から1978年まで、企画調整局長として実践した。自治体学会設立に関与し初代の代表運営委員を務めた。

当 NPO 法人の概要

- 2015年4月発足から5年目
- 横浜市認証特定営利活動法人で、拠点を横浜市に置いている
- 理事長は田村千尋（田村明の実弟で国際的化学者）、副理事長は田口俊夫（元横浜市都市デザイナー、工学博士）
- 会員は20名（横浜市現役職員とOB、大学研究者、市民、韓国の研究者も含む）

我々が考える田村明の人物像とは、

- 自治体がつべき「主体性と総合性」を主張し実践した
- 自治体プランナーの必要性を訴えロールモデルを示した
- 自治体間の政策交流を提唱し枠組みを形づくった
- 常に市民の目線をもち総合的に考え行動することを旨とした
- 頑張る若者に期待し育成した

活動の柱は、

1. 田村が関った横浜の都市づくりの客観的かつ科学的な国際的学術研究の推進
2. 横浜市以降の田村の「まちづくり」と「市民の政府論」等の思索の変遷研究
3. 田村が訪れた全国のまちづくり団体との交流
4. 田村の思想と実践から学ぶ現在と将来に係わるまちづくり課題への調査研究
5. 研究と活動成果の NPO ホームページ <https://www.machi-initiative.com/>での公開

これまでの活動の主な実績は、

- 毎月公開研究会を開催し、講演記録を NPO の Website に掲載している
- 研究に際して収集した横浜市役所等の公文書を NPO の Website で公開している
- 田村明が交流した全国のまちづくり団体を訪問し記録をとり NPO の Website で公開している
- 2016年に NPO 設立1周年記念で田村明に係わる方々200名に集まっていたきセミナーを開催
- 2018年に国際都市計画史学会 IPHS 横浜大会で『田村明分科会』を設置し会員4名が英語論文を発表した
- 2019年に米国ジョージア州立大学主催の国際セミナーで田村明研究の英語論文を発表した

今後の課題は、

- 行政内部の情報管理のため貴重な行政情報資料が廃棄されていく
- 当時の現場を知る関係者が高齢化するなかで、発言を躊躇する関係者も多く歴史を語り継げない
- これまで英語による情報発信が決定的に欠けているため、世界での認知度が極めて低い
- 国内外での活動が多岐にわたり活動資金がかさんでいくため、新たな寄付者を見つける必要がある

The image shows a screenshot of the NPO's website on the left and a book cover on the right. The website header reads 'NPO 法人 田村明記念・まちづくり研究会' and 'Akira Tamura Memorial - A Town Planning Research Initiative NPO'. The main content area features a navigation menu on the left and several articles on the right, including '田村明に縁のあるまち歩きのご案内' and '田村明の世界的旅のスケッチブックを公開'. The book cover on the right is titled 'TAMURA AKIRA 魅力あるまちへ' and 'Creating brilliant cities'. It features a photograph of two men sitting on a bench in front of a large, dark, abstract sculpture.